

よきおとずれ

カトリック釧路教会だより
〒085-0018 釧路市黒金町 12 丁目 10
第 7 号 2016 年 11 月 2 日 死者の日 発行



今も、死を迎える時も

ヘルマン 渡辺 義行 神父

ある墓地で大きな墓石を見つけました。

墓石の真ん中に、“やあ、よく来たね 今度は君の番だよ”という言葉が刻まれてありました。読む人は、きっとドキッとするのではないのでしょうか。「人は死ぬものである」とはよく言われる言葉ですが、大抵そこに自分が入っていないようです。「死」は、まだ他人事なのです。

ところが、肉親の死とか親しい人の訃報などをきっかけに、人は「死」や「死者」に思いを向けるようになるでしょう。

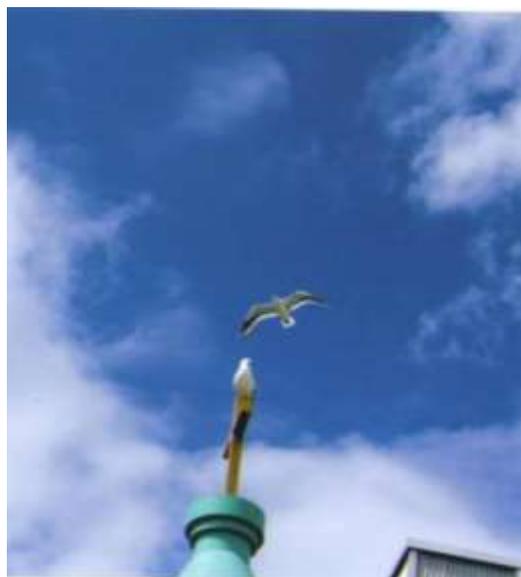
老人ホームで亡くなった父は、ホームに入る数年前、弟の家族と一緒に暮らしていました。父の死に顔と対面した幼い孫が口にしたのは、「おじいちゃんは しんだけど いきているんだよ」という言葉でした。

これは、まさに、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる」と言われたイエスの言葉を幼子

が伝えてくれたように思われたのです。

わたしたちは、わたしたちのために苦しみを受け、十字架に掛けられて死に、葬られ、復活された方にこそ希望を懸けている者です。

この短い人生を終えてから、父のみ顔を仰ぎ見られるようにと、今も、死を迎える時も聖母マリアに心から願って参りましょう。



松浦司教様の講演を聴いて

モニカ 越田 こずえ

平成 28 年 8 月 21 日、信徒の養成会で教区 100 周年の記念事業として松浦悟郎司教様による講演と「平和をつなぐ集い」が開かれました。

「世の中、そして今の日本は戦争に向かっていく。」そう聞いて、えっ！正直驚きました。そんなことを考えたこともありませんでした。日々、時間に追われて生活していると、戦争など遠い国の出来事で、私の日常とは関わりのない話だと思っていました。憲法 9 条、安全保障

関連法、集団的自衛権といった話は、どこか TV の中のこととで、真剣に向き合ってこなかった私にとって、今回の松浦司教

様のお話は「目からうろこ」でハッとさせられました。世の中を第三者的に見たり、見て見ぬふりをしたり、現実から目を背けているうちに麻痺されて、苦しむ人がただの風景になっていく恐ろしさ。まさに自分がそうではないかと思わされ



ました。

また、「なぜ、教会は社会問題にかかわるのか」…、この問いは私の中にもありました。そんな疑問もお話を聞いて解決されました。人間とは何なのか、人間の尊厳とは何かを考えたとき、一人ひとりの人間は皆、神様の子として大切にされなくてはならないのだということ。社会問題というのは私たちにとって大切な一人ひとりの人間の上に起こっているのだということ。そして、教会の平和の役割

と社会問題の解決とは、めざすものが一緒なのだということ。社会の流れの中で、私たちが心地よく、生きていけるように改めて日曜日ごとに立ち止まって「主よ、私はこれでいいんです

か？」と問いかけていきたいと思います。

未来の子供たちのために何ができるのかを考える良い機会を与えていただいたことに感謝しています。

神に感謝

短歌

「また一人身近かなる人旅立ちて如月は吾が鎮魂の月」

「なみなみのお湯割りグラスにひよっとこ口寄せて夫の夕餉はじまる」

エリザベト 鈴木 みよ子

根室教会（巡礼指定教会）への巡礼

カタリナ 山口 美智子

60年ぶりに訪れる根室、大雨と15度の気温に気をひきしめて、8時18分発の列車に乗りました。

教会の方々は川上神父様と共に11名1両の車両に、私共のほかにも5、6人の方が乗っておられました。発車するとすぐ川上神父様より「巡礼なのでからロザリオを祈る様に」とのお言葉に各自祈りました。お弁当や飲み物に気を取られていた自分が恥ずかしい。

主人の実家のあった尾幌、子供の頃、弟と何度も行った厚岸の祖母の家など、思い出の厚岸の教会、窓から見えた幼稚園を眺めながら、65年前にいただいた信仰のお恵みを、怠け者の私が細々と守りつづけて来られた事、その大きなお恵みに感謝の思いがわいたところで根室に着くと雨も上がっていました。

駅から歩いてすぐに見えてきた根室教会は、今までの教会のイメージとはまったく異なり、十字架がついていなければ教会とは思えない可愛い明るい色どりの建物でした。ちょうど、自家用車で来られた方たちも着いていて、2階の聖堂へ行くとすぐに川上神父様のごミサが始まりました。お説教の時、ベトナムの方々が毎日曜日、ごミサにあずかっておられるとお話、60年前の神父様はイタリア人のヴォルカン神父様で当時、根室に米軍のキャンプがあり、日曜日の午後、神父様のごミサのためにキャンプに行っておられたことなど、思い出されました。ごミサのあと、部屋をお借りして食事を

して、帰路につきました。駅前の変わりようは別の町に来たようでした。何軒かカニのお店があったので、土産に花咲ガニを買って帰り、有り難い1日でした。



アンナ会の黙想会

アグネス 椎野 真知子

7月22日、アンナ会黙想会が開かれ、31名出席されました。マウリリオ神父様の話があり、悪い人たちのために神の力が必要、神の助けがないと無理です。私の力では何もできない、神様の働きが必要です。聖パウロも言っているように「いつも喜びを忘れずにいなさい」。人間は弱いので、憎しみ、傲慢、不潔は誘惑いっぱいです。

弟子たちにご受難の時も気を落とさず絶えず祈れとイエス様は言いました。人についての悪口は自分も傷つけ、神様にも傷をつけることになります。人の欠点は自分の欠点、憐みの心を持ち、お互いに支え合う兄弟が転んだら助けてあげましょう。祈りは力を持っています。

全世界の人々のために人は泣くのを忘れたのではないのでしょうか。可哀想だと思ったら祈りましょう。

亡くなった人の犠牲、その殺人テロのためにも神様の心が必要です。事件を簡単に見ていないで、もっと痛みを感じなくてははいけません。イエス様のためにすべてをみるべきです。

ホスチアはイエス様だろうか？何をいただいたのか？より深くわかるように心が味わい、楽しむように受けましょう。ご聖体をいただくという気持ち、大き



な恵みがわかったらつかんで光をなくさないように祈り続けましょう。これが聖霊の働きです。日曜日ミサに与る教会にいる間、心の準備をしましょう。命を私

達に献げてくれたキリスト、マグダラのマリア、ヨハネも私たちの側にいます。落ち着いてミサに与り、ロザリオの祈りをしましょう。キリストが自分で捧げたご聖体によってイエス様とつながっています。病気になって家から出られない時、聖体拝領を神父様に頼むべきです。

生涯は短い、死は確かなこと、いつ死ぬかわかりません。歩くとき、掃除をするとき、寝る時、買い物をするとき、賛美の祈りを大事にしましょうとお話いただき、昼食をして解散となりました



+いつくしみの特別聖年が11月20日(王であるキリストの主日)で閉幕となります。

心を開いて、あなたを見つめる主のまなざしと、主のいつくしみを感じてください。そうすれば、もしあなたがゆるしを求めて主に歩み寄れば、あなたの心はゆるされる喜びで満たされるでしょう。主とともに、主の慰めの力とともに、生きる希望を奪われないようにしましょう。(教皇フランシスコ「いつくしみの特別聖年に関する連続講話」より)



+ユスト高山右近の列福式が2017年2月7日に行われます。

この列福を機に、「義の人」右近の生き方にならい、信仰を深めることができるよう神のめぐみを祈り求めていきましょう。

編集後記

いつくしみの特別聖年、札幌教区100周年の年、カリシモ神父様、マウリリオ神父様の司祭叙階60年を迎えられた年。沢山の恵みに感謝で一杯です。

今から始まる新たな100年に向け、神のいつくしみと愛を私たちは受けるだけでなく、周りの人に伝える者となって行く事を願い祈ります。(N.K)

カトリック釧路教会 〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10

TEL 0154-22-5823 FAX0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会

